

# 語れる2年間を過ごそう

# 学科紹介

## 総合教養学科

## 国文学科



### リアルな体験を通して学ぶ実践的な学び場

総合教養学科は、学びたい分野や希望する進路に合わせて、経済・経営学、法学、英語・海外の文化、哲学などを学ぶことを通じて広い教養を身につけることを目的としています。入学者は地元を滝川から南は九州、沖縄まで各地から集まっています。学生たちは自分の興味のある分野を深めていく一方、多様な価値観や考え方を交流させることにより、多様性を身につけて自分なりの考え方を育てます。卒業後は、國學院大学に編入する学生も多々ありますが、北海道で就職し地域を支える人材となる学生も少なくありません。

本学科の学びには3つの大きな特徴があります。1つ目は「ゼミの総合教養学科」です。入学後全員がすぐにゼミに入り、2年間少人数制のゼミに所属します。ゼミはテキストを精読するものから、まちに出て地域活性化を实践するゼミまで多様に富んでいます。ゼミでは教員が学生の勉学はもちろんな生活面もサポートしていただきます。安心して短大生活を送ることができます。

2つ目は「リアルな体験価値」の重視です。都市部の大学ではできない北海道ならではの経験ができるのも本

### 「文学」「歴史・民俗」「神道」「創作」を極める学科

国文学科は、北海道内の大学で唯一、古代から現代までの日本文学、日本史、神道学・宗教学、漢文学、国語教育、文芸創作などを本格的に学べる学科です。

基礎力から高度な専門的能力までを体系的に身につけることができるように構成されたカリキュラムにしたがって教育を行っていますが、特に特徴的なのは卒業論文です。学生たちは、全員がそれぞれ少人数制のゼミに所属し、各自が決められたテーマに基づいて研究を行い、2年間の集大成として卒業論文を完成させます。ゼミ活動を通じて、各授業で培った様々な技能や知識が統合され、資料を読み解く力、一定量の高質な文章を書く力、論理的に考える力、主体的に取り組む力、人とのコミュニケーション力などが体得され、社会人となるための基礎が培われていきます。優秀な卒業論文は、毎年、学術雑誌『滝川国文』に掲載され、国会図書館をはじめ、全国の大学図書館に所蔵されています。

研究教育の場で扱う資料は、近現代文学作品のほか、変体仮名、古文書、漢文、公文書など多種多様です。高校までの学習で触れることのなかった資料を扱い、解説することができるようになることも特徴の一つです。これまで先人たちが残した貴重な文化遺産を後世に継承してゆくためにも、このような能力を養成することは、本学科の重要な使命の一つであると考えるています。

卒業生たちは専門的能力を活かして各界で活躍しています。主な進路先は、図書館司書、中学校教諭公務員、金融機関、ホテル業、執筆業など様々ですが、特に司書については、狭き門ながら毎年約半数に就職を果たしています。その他、多くの学生が國學院大学へ編入学しています。教員を目指す学生も多く、短大を卒業して中学校教諭になるほか、編入学を経て高校教諭になる卒業生も少なくありません。中には國學院大学卒業後、大学院に進学し研究を続ける者もいます。

本学科の教育は四年制大学に劣らない水準だと自負しています。これからも、専門的能力を活かして地域・日本・世界の未来のために貢献できる人材を育て続けていきます。(副学長 国文学科長 教授 山寺三知)

### 幼児・児童教育学科 児童教育コース



### 幼児・児童教育学科 幼児保育コース



### 児童教育コースの現在 ～教えることは学ぶこと～

児童教育コースは、小学校教員を目指す課程として、平成18年に開設されました。平成21年には、國學院大学に人間開発学部が設置され、編入学の道もつながり、多くの有意な学生が教職を始めとして社会に巣立っています。16年目を迎えた本コースの現在を振り返ります。

1. 体験を通しての地域での学び  
教師を目指す強い意志と熱意を持った学生が、全国各地から入学してきます。本学のカリキュラムは、シームレスな学び、情熱溢れた人間性豊かな教師を育成するために、座学だけでなく地域の中で学ぶことにより、初等教育研究会での成果発表を行い充実させてきました。

2. 教員採用試験を視野に入れた学び  
本コースでは、毎年6月末に実施される「北海道・札幌市公立学校教員採用試験」を2年生全員が受験します。1次試験の合格者は、今年度15/18名、教員採用を巡る今の情勢の中では大健闘しています。日常の授業の他に、1年次での教授試験対策学習、2年次での教授模擬試験、市内小学校での学習ボランティア、市内小学校で開催される公開研究会への参加などの実践的な取り組みが、成果に繋がっていることを確信しています。

これまで、着実に蓄積されてきた本学での学びが、卒業生の手により全道・全国各地に拡散されてきています。今後は、教職に就いているOB・OGのネットワークを繋ぎ、研修と交流の場と機会を創り出すことに取り組みします。これまで以上に、財団と連携した、SDGsを見通した環境教育、滝川市ならではの地域資源を活用した力強い体験や講座(幼児・児童教育学科長 教授 春田淳)

### 地域との交流で磨く実践力

幼児保育コースは、これまで地域交流を含めた実践的な教育活動を行ってきました。それは、子どもたちの鋭敏な感受性に対して、共感し、受容し、導いていく能力をもった保育者を養成するためでもあり、他にも、風揚げな音遊びを基軸とした科目、あるいは英語を用いた保育活動を学ぶ科目など、2年間という短い時間の中であっても、保育者として必要な知識や能力、あるいは感性を総合的に獲得することができているのは本コースの魅力だと考えられます。

社会が大きく変わりつつある中、一人一人が持つ保育・教育についての矜持、他方で変化や多様性への柔軟な姿勢という、一見すると相反するような二つの態度が保育者に必要になります。地元滝川市に限らず、北海道内あるいは全国に広がる、それぞれの地域における保育・教育の質をより高めることには、これからの態度を備え、2年間を通して、より良い地域生活を創り出すことに、そしてその重要なスタート地点として本コースが存在していることを願っています。(幼児・児童教育学科 幼児保育コース長 准教授 菅原健太)

実践力に磨きがかかっているのは、実務的に具体的に発展的な力を身に付けさせるべく、これまでの伝統を踏襲しながらも、上述したような教育活動をさらに量的に拡大させ、質的に向上させていくような変革が行われています。

長く続くコロナ禍において、様々な制約もあり実現できていないものも多々ありますが、この限られた条件の中で何が出来るのか、あるいはそれが制約がなくなった時にどうすべき教育活動は何か、といったことを検討しながら、その時を待っています。

保育・教育における質の高さは、それぞれの地域生活の質を支える重要な基盤です。10年後、開学50周年を迎える時には、保育者として働いてきた卒業生と、新たな時代を生きてきた卒業生が混ざり合いながら、それぞれの地域における保育・教育の質をより高めることを通して、より良い地域生活を創り出していること、そしてその重要なスタート地点として本コースが存在していることを願っています。(幼児・児童教育学科 幼児保育コース長 准教授 菅原健太)